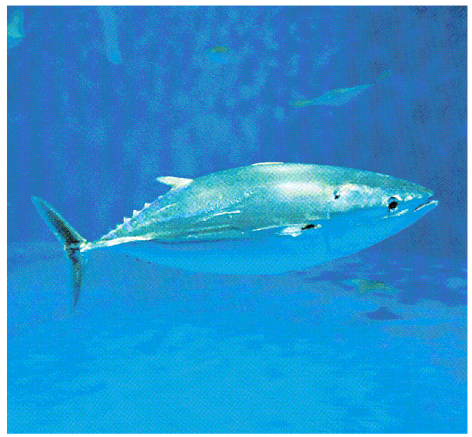
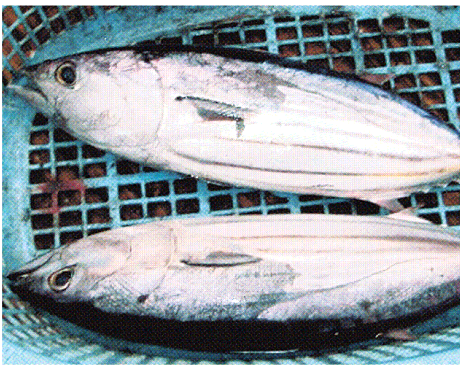




㊦黒潮大水槽を泳ぐカツオ㊦水揚げされたカツオ。腹側に黒いしま模様がはっきり見える

カツオ

学名 *Katsuwonus pelamis*

- 分類 スズキ目サバ科カツオ属
- 分布 世界中の熱帯域から温帯域
- 大きさ 最大体長 1 ｍ
- 食性 イワシ類などの小型の魚類、イカ類、オキアミ類など
- 生態 えさが少ない外洋域でえさを確実に捕らえ、かつ、自身がえさとして食べられないために、高速で泳ぎ続けられるように進化した。水の抵抗を極力抑えるために、体つきは両端にかけてとがる円柱形をしている。南から日本近海にやってくるカツオは、黒潮に乗って三陸沖合まで北上するルートが主な回遊経路と言われてきた。近年の研究により、ほかにも九州・パラオ海嶺沿いや伊豆・小笠原列島沿いの経路が分かってきた。

普段はないしま模様

「鯨節生産量日本一」の腹皮焼「ピンタ煮」「かつおラーメン」など、カツオは鹿児島県ではなじみが深く、県外の人も連想しやすい郷土を代表する魚の一つです。

かごしま水族館では「鹿児島島のシンボルフィッシュ」として黒潮大水槽で展示しています。振動や光の変化に敏感で、驚いた拍子に水槽の壁に激突することもあります。

水槽を泳ぐカツオに違和感を感じる人も多いかもしれません。市場や図鑑で見る特徴的な腹側の黒いしま模様

おもしろ生き物図鑑 かごしま水族館から

水槽の照明の点灯・消灯の時は、ゆっくり光の量が変わるようにしたり、夜でも真っ暗にならないように常夜灯をつけるなど、急な刺激を与えない工夫をしています。

水槽水面近くで高速で追いかけてくっているならば、繁殖行動です。1尾の雌を数尾の雄が追いかけて産卵を促しているのです。当館では年間を通して産卵が確認されます。そこで、2019年から水産研究・教育機構と協力して、ふ化に関する研究を行っています。カツオの繁殖生態やふ化の条件などは分かっていることも多く、大きな海で調べるのとはとても難しいです。水族館で飼育しているからこそできる生態解

明にとり組んでいます。（展示課魚類展示係・土田洋之）